

上中里・氷取沢地区 小規模校再編検討委員会ニュース

上中里小と氷取沢小の小規模化という現状を踏まえ、児童の教育環境の向上のため、地域やPTA代表の方々、学校関係者からなる「上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会」を設置して、平成17年6月26日に第1回検討委員会を開催し、検討を始めました。



小規模校再編検討の経緯

～横浜市全体の現状とそれに対する基本方針～

全国的に少子化が進んでいますが、横浜市立小・中学校の児童・生徒数も年々減少しています。小学校の児童数は平成13年度から微増し、中学校の生徒数も平成18年度から増加に転じる見込みですが、今後も大幅な増加傾向は見られません。

このことに伴い、小規模校（小学校11学級以下、中学校8学級以下）の数も10年前に比べ約3倍に増加（小学校52校、中学校21校）し、様々な問題点が指摘されるようになりました。



そこで、横浜市では、平成15年12月に「横浜市立小・中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区域制度の見直しに関する基本方針」を定め、小・中学校の小規模校化問題に取り組むこととしました。

基本方針の概要

通学区域に関して

学校は地域社会の中核としての役割を果たすことから、横浜市では「『まち』とともに歩む学校づくり」を進めており、今後も住所によって就学すべき学校を指定する現行の通学区域制度を基本とします。

学校規模に関して

教育効果との相関、教員配置など教育指導面における充実や管理運営面、学校施設・設備の効率的な使用などから総合的に判断し、適正規模の範囲を定めました。

適正規模 小・中学校 12～24学級（学校全体の普通学級数）
小学校：1学年2～4学級 中学校：1学年4～8学級

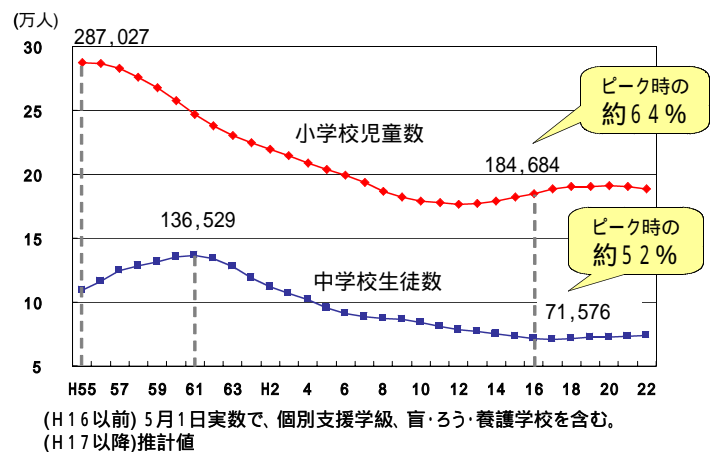
～ 適正規模校は次のようなメリットがあげられます ～

各学年2学級以上あることにより、どの学年でもクラス替えができる。

各学年2学級以上あることにより、総合的な学習等における課題別の活動や特別活動等の充実を図りやすい。

小学校は、各学年4学級以下であることにより、児童一人ひとりの個性の伸長、個に応じた適切な教育を行いやすい。

横浜市立小・中学校の児童・生徒数の推移



小規模校 小学校 11学級以下 中学校 8学級以下

～ 小規模校では次のような問題点が指摘されています ～

人間関係面では...

クラス替えができないので、人間関係につまずいたときに修復に時間を要することが多い。
多くの友人と知り合う機会が少なく、人間関係が固定化しやすい。

子どもの活動面では...

運動会・体育祭などで、集団演技やリレーなど一定以上の人数が必要な種目や競技が行いにくい。
合唱やスピーチコンテストなど子ども同士が相互に評価し合う発表会が行いにくい。
クラブ活動の設置数が限られるため、選択の範囲が狭くなる。

学校運営面では...

学年1学級の場合、担任は学年や学級の運営を一人で行うことが多くなる。
教職員一人ひとりが担当する校務が多くなり、負担が大きい。

小規模校対策

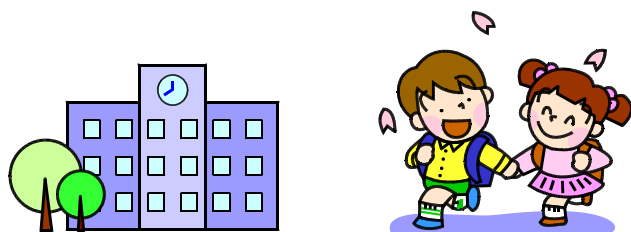
小規模校の問題点を解消し、教育環境を改善するとともに、地域の皆様の理解と協力を得ながら、学校統合や通学区域の変更等を行い、学校規模の適正化を進めます。学校統合の検討に当たっては、「小規模校再編検討委員会」を設置し、十分調整します。

学校統合の検討対象地域は...
小規模校が複数近接する地域

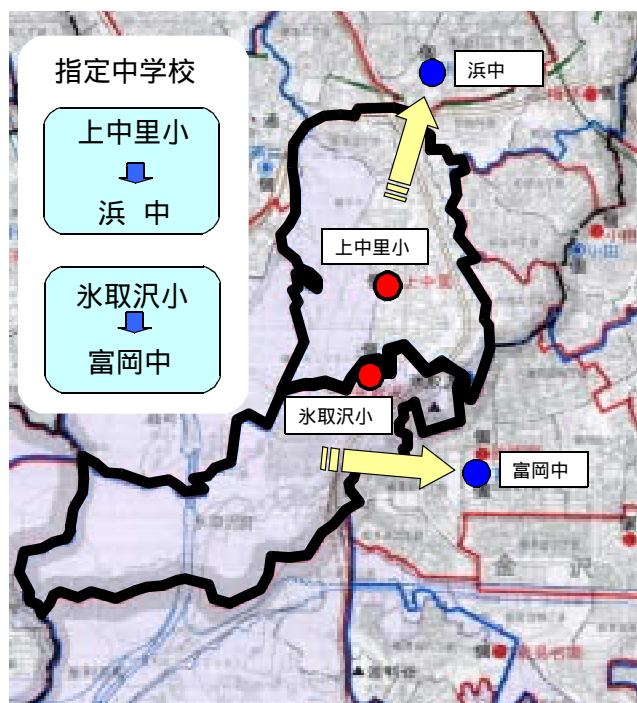
上中里小学校と氷取沢小学校の現状と課題

上中里小は、昭和48年に杉田小から分かれて新設され、一方、氷取沢小は、昭和56年に上中里小から分かれて新設されました。その後、通学区域を一部変更し、現在に至っています。

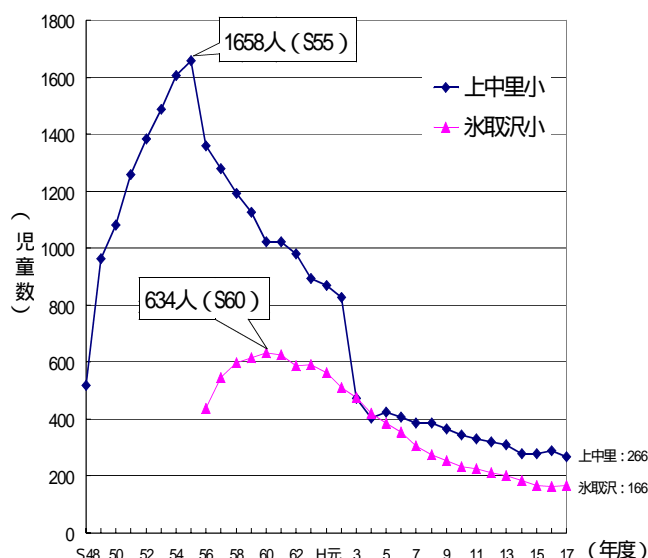
両校の児童数の推移と今後の見込みをみると、上中里小は昭和55年の1658人、氷取沢小は昭和60年の634人をピークに減少に転じ、本年5月1日現在で上中里小は266人(ピーク時の約6分の1)、氷取沢小は166人(ピーク時の約4分の1)と大幅に減少しています。今後も減少傾向は変わらないと考えられ、平成22年には、上中里小は228人で8学級、氷取沢小は95人で6学級となる見込みで、両校ともますます小規模化が進行することが予測されます。



上中里小と氷取沢小の通学区域



上中里小と氷取沢小の児童数の推移



上中里小と氷取沢小の児童数・普通学級数の今後の見込み

年 度	児 童 数						普 通 学 級 数					
	H17	18	19	20	21	22	H17	18	19	20	21	22
上中里小	266	257	248	237	233	228	12	9	9	9	9	8
氷取沢小	166	148	124	121	110	95	6	6	6	6	6	6

H17の数値は、5月1日現在の実数を表します。

検討委員会での検討事項

検討委員会では、今後、次の事項について協議していきます。

- 再編計画案に関すること
- 通学区域の変更案に関すること
- 統合校の学校名に関すること
- 通学安全要望に関すること
- その他小規模校再編及び通学区域に関すること



委員は、次の方々をお願いしています。

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会委員（敬称略）

- 委員 長 畠中 正夫（磯子区青少年指導員協議会会長）
- 副委員長 後藤 薫（磯子区体育指導委員連絡協議会会長）
- 同 松岡 宏（磯子区子ども会連絡協議会会長）
- 同 真崎 マリ子（磯子区主任児童委員代表）

委 員

- 齋藤 友一（磯子台住宅自治会会長）
- 西山 勝枝（磯子パルク自治会会長）
- 大島 龍彦（大崎団地自治会会長）
- 大石 裕（上中里団地自治会会長）
- 須田 利一（上中里町内会会長）
- 大竹 雄一（興人磯子台マンション自治会会長）
- 小菅 直美（パルクハウス磯子台自治会会長）
- 金子 健治（氷取沢町内会会長）
- 池上 利男（ミューズパルク上中里自治会会長）
- 岡澤 厚子（上中里小学校PTA会長）
- 椎野 弘子（上中里小学校PTA副会長）
- 川島 裕子（上中里小学校PTA関係）
- 長谷川慶子（上中里小学校スクールゾーン対策協議会）
- 三渡 永子（氷取沢小学校PTA会長）
- 宮崎 文子（氷取沢小学校PTA副会長）
- 佐野 泰子（氷取沢小学校PTA関係）
- 石川智恵子（氷取沢小学校スクールゾーン対策協議会）
- 坂田 映子（上中里小学校校長）
- 武田 謙蔵（上中里小学校副校長）
- 檜永 卓三（氷取沢小学校校長）
- 田中 俊幸（氷取沢小学校副校長）
- 堀内 早苗（浜中学校校長）
- 相澤 利隆（富岡中学校校長）

第1回検討委員会では、委員長及び副委員長の選任と検討委員会の運営に当たっての基本的事項を整理し、検討委員会として確認しました。

また、事務局から、小規模校で指摘されている問題点や上中里・氷取沢両校の今後の状況等を説明し、子どもたちのために、より良い教育環境を目指すことを共通認識として確認しました。

第1回検討委員会の議事内容

横浜市の児童・生徒数の状況について

見直しの考え方と方策について

上中里・氷取沢地区

小規模校再編検討委員会の設置について

上中里・氷取沢地区の学校の現況について

ほか

主なご意見・ご質問

現在の児童数は、両校合わせて432人。今後、平成22年には323人で109人も減少する見込みとなっているが、この先も減っていくのか。

おそらく傾向は変わらないと思います。(事務局)

現在、氷取沢小の指定中学校は富岡中で、上中里小は浜中となっている。以前は氷取沢小も浜中が指定校だったと記憶しているが、これは何を機に変わったのか。

平成4年に小田中が新設されたときに一部通学区域を変更させていただいたという経緯があります。(事務局)

学校がなくなるのは寂しいが、どちらかの学校に統合しなければならないし、子どもたちのためにもやらなければいけないと思う。

次回の検討委員会では具体的にどのような話になるのか。また、次回までに持ち帰って何か話しをしておくことはあるのか。

次回の検討委員会で何かを決めるというところまではいかないと思います。ただ、今日の資料よりももう少し細かいデータを事務局として用意する予定です。まずは、再編統合そのものについて議論いただくことが先決と考えております。(事務局)

次回検討委員会の日程

平成17年7月27日(水)午後7時から氷取沢小学校で開催予定

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会の経過や横浜市の基本方針等は
ホームページでもご覧いただけます。

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

基本方針等：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会は、皆様からのご意見をいただきます。
EメールかFAXで事務局にお送りください。

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会事務局

横浜市教育委員会事務局学校計画課 Eメール：ky-isogo@city.yokohama.jp

FAX：045-651-1417 電話：045-671-3252